

平成28年度 第2回 宇都宮市食育推進会議 議事録

■ 日 時 平成28年12月22日（木）午後2時～3時

■ 場 所 宇都宮市役所14階 14大会議室

■ 出席者

1 委 員（16名）

大森玲子会長，塚原毅繁委員，福田久美子委員，小森享委員，長谷川英一委員，清水昭子委員，小曾戸典子委員，澤田博子委員，半田正子委員，伊沢栄子委員，堀内英夫委員，中野智之委員，刑部郁夫委員，竹内哲也委員（見形繁委員代理），寺内美栄子委員，青木浩子委員

※欠席委員：遠藤秀樹委員，岩本眞砂枝委員，金田淳委員，荒川昭子委員

2 事務局（12名）

[保健福祉部] 部長，次長（保健衛生担当），保健所所長

[健康増進課] 課長，課長補佐，健康づくりグループ係長，職員4名

[学校健康課] 学校食育グループ係長，職員1名

■ 公開・非公開の別 公開

■ 傍聴者 なし

■ 会議経過

1 開 会

- ・ 委員の過半数が出席しており，本会議は有効であることを報告
- ・ 「附属機関等の会議の公開に関する要領」に基づき，会議公開について説明，了承

2 あいさつ（会長）

3 議 事

(1) 協議事項

ア 「第3次宇都宮市食育推進計画」（素案）について

4 委員からの主な意見・質問等（要旨）

(1) 協議事項

ア 「第3次宇都宮市食育推進計画」（素案）について

● 委員

今回の基本方針は、家庭だけでなく、地域や職場で食を支えるというのが特徴的で、これからのライフスタイルや社会状況の中で、これらはとても大切な視点であると共感する。食は奥が深く、食から学ぶことや見えてくるものがとても大きいと感じている。給食や食を通して学ぶことは可能性が大きく、学校においても積極的に行ってほしい。

基本目標2の主な事業「地域や職場における食育の推進」では「宮っこ食育応援団との連携事業」や「地域における食育推進事業」とあるが、具体的にはどのような取組か。また、子ども達の孤食などが問題視されているが、夕飯を家族で食べる機会がないなど社会格差の広がりの中で、栄養がきちんと摂れていない育ちざかりの子どもがいる。民間では「こども食堂」などの動きが広がっているが、連携や行政支援はどうなっているのか見通しがあれば教えて欲しい。

○ 事務局

事業としては、第3次宇都宮市食育推進計画（素案）の41ページ事業番号50番「地域における食育推進事業」が該当する。

最近の新聞報道などにもあるように、現在は地域の有志が「こども食堂」を提供しているが、今後、行政としてどのような支援ができるのかを検討中である。

● 委員

今年あたりから「こども食堂」の活動が宇都宮市でも活発になってきたと感じている。また、これからの5年間でかなり広がると考えている。フードバンク事業も民間で広がってきてはいるが、民間だけでは苦勞していると聞いているので、地域の要請に応じて行政が支援していくことは大切である。支援の検討中とはいえ、具体的に積極的に動いて欲しい。

次に、基本施策6「食の循環や環境への理解の促進」について、学校給食を自校方式で提供しているところの給食の残渣が少ないという記事を読んだ。これは子ども達が自校方式で調理する給食を美味しいと思い食べている証拠だと思う。宇都宮市では、自校方式を守り努力しているところだが、生ごみの減量対策も大きな課題である。

中学校では、生ごみ処理機が設置されている学校もあるが、まだまだ設置は広がっていないし、今後の方向性も定まっていない。学校給食との関係で生ごみを減らしていくよう子ども達へ教育していくことで地域の人々への啓発としても強力な力となる。横の連携をしっかりとりながら食を推進していく立場と、ごみを減らし、循環型社会を作っていく立場の連携を強くしてやっていただきたい。

○ 事務局

給食の残渣についてであるが、本市学校給食は自校調理方式や栄養士の全校配置などにより献立の工夫や食育を推進し、ここ10年間で残食率も半分になった。学校における

給食残渣については環境学習や食育全体の一環として進めていくこととなるが、環境部の考えもあるので、連絡調整を図っていききたいと思う。

○ 事務局

食育推進計画は、健康増進課が中心となって取りまとめているが、庁内検討組織を設置し、関係部局が連携・調整を図りながら、施策・事業を推進している。引き続き、部局横断により庁内全体で食育に取り組んでいきたいと思う。

● 会長

「地域における食育推進事業」に関連して、実施団体として食生活改善推進員の事業があるので、何かしら想定される事や、これまでの取り組み等について紹介いただきたい。

● 委員

食生活改善推進員はスキルアップのための講習会やリーダー研修会を実施している。事業としては、地域へ出向き、みそ汁の塩分測定を行うなど、1日の塩分摂取量が何gあるか確認することや野菜を1日350g以上摂ることなど皆さんの体に合った無理のないやり方を推進している。また、低栄養やロコモにならないように体を動かすことも教えている。

現在は、若い人と高齢者とに分けて減塩対策の事業を考えている。

高校などへ出向くグループと60歳以上を集めて生活習慣病予防の説明ができるよう計画中である。

なお、食生活改善推進員は減塩などの食事面、健康づくり推進員は運動の推進を中心に活動しているが、一緒に活動している地域もある。

● 委員

基本目標2について、朝食・夕食を毎日家族と一緒に食べる人の割合は幼児、小学生が90.5%となっている。バランスのとれた食事を取ることは健康に大切だが、それ以上に楽しく食事をするの方が大切である。

最近孤食が増え、大きな社会問題となっている。基本目標2については、平成28年の現状で「朝食または夕食を家族と一緒に食べる1週間あたりの日数」を週5.8日に対して週6日以上が目標となっているが、これは週何日ではなく、パーセントで目標設定をした方がよいと思う。(参考：素案27ページ)

○ 事務局

施策指標「朝食または夕食を家族と一緒に食べる1週間あたりの日数」について、国の第3次食育推進基本計画では、目標値を週あたりの回数としており、これに合わせて

設定している。

● 委 員

基本目標3「【新】宇都宮産米消費拡大事業」について、毎年新米が入ると、米の消費拡大として料理教室を実施している。とちぎ農産物マーケティング協会の協力を得て、1月に地産地消のこんにゃく・落花生・かんぴょうを使用した料理教室を予定している。市ではどのような事業を計画しているのか。

○ 事務局

宇都宮産米拡大事業では、「うつのみやはじめてごはん事業」、「げんきにごはん事業」を新規事業として計上した。

● 委 員

全て素晴らしい事業だと思うが、事業の優先順位があれば教えて欲しい。

○ 事務局

別紙1裏面の「◎」が付いた事業を重点事業ということで、市として力を入れていきたいと思っている。

● 委 員

重点事業は年に何回も行うのか。年度内に一度啓蒙活動をするだけのものは重点事業ではないと思う。今後、進行状況などをみながら中間的な数値を出していくのか。

○ 事務局

食育に関する意識調査を実施し、食育の認知度など、市民の声を聴き、事業を計上している。啓発については、その都度アンケート等で状況を確認し、そこでより深くやっていくべきものは年2～3回と重点的に取り組むつもりである。

● 委 員

現在、調理師専門学校において、毎年親子食育教室をやっている。毎回すぐに満員になるほど盛況となっている。テーマを決め、食育で心豊かに、食育講習会、食育実習の3本立てで行っている。学校だけでやってきたが、今後は行政と連携していきたい。

○ 事務局

計画については、行政のみならず地域の方も一緒にやっていることもあり、行政も積極的に関わり参加したいと考えている。委員の皆さんの取り組みを計画に盛り込んでいきたい。

● 委 員

地場野菜を使い宇都宮大学の学生考案の餃子めしを給食で出したところ、子どもたちの反応はとても良かった。また、教育委員会では料理レシピサイトを活用して給食メニューを広く周知したところ、保護者からの反応も上々である。

● 会 長

これまで実現しなかった連携が、これからはできれば良いと思う。

● 委 員

素案 p35 事業番号 3 の「高校・大学等との食育連携事業」について、高校・大学の食育はとても大切だと思う。一人暮らしになったとき、どのように自身の食を支えていくのか。朝ごはんを食べてから学校へ行く、ということがないがしろになってしまう。ここから 20 歳代・30 歳代の朝食欠食に突入してしまうケースが多い。

都内の大学では、学食で安く朝食の提供をしていると聞く。学生が一人で朝ごはんを食べる事は中々難しいのだろう。「高校・大学等との食育連携事業」における啓発事業とは具体的に何を実施するのか。

○ 事務局

本年度の食育フェアでは、大森会長と宇都宮大学学生に協力していただき、『朝ごはん食べ隊』というグループを作り、若い人がどうしたら朝食を食べるのかのイベントを実施した。これは何より若い人が自ら考えることが必要と考えて実施したものであり、今後は各大学と連携し、学生が自ら考える場を設けられるよう検討している。

● 委 員

宇都宮大学には農学部もあり、”農業女子”という言葉も聞かれるなど、食に対する関心は高まってきていると思う。しかし、全体的に広まっているのかといえばそうではなく、自身の暮らしを振り返ってみた時にどうなのか。まだまだ足りないと感じる。色々な角度からの取り組みを期待したい。

● 委 員

別紙 1 の課題の総括では「咀嚼」について、「よく噛んで食べる人を増やす必要がある」とのことだが、その大前提として、よく噛める口内環境ができている必要がある。よく噛んでと言われても、一方の歯が痛いだけでも噛むことはできない。その為には、常によく噛める環境を作っていくことが前提である。よく噛める環境づくりが必要な子どももいるということに気を付けなければならない。

素案 P 33, P 39 の「歯科健診実施事業」について、現在のシステムとしては、1 歳半から 18 歳までは何かしらの健診があり、事業所健診も見直され増えつつある。宇都宮市

では現在は 30 歳から歯科健診が実施されているが、18 歳から 30 歳までの間が抜け落ちている。その間に口腔内の環境が乱れていく人は乱れる。

80 歳を過ぎても 20 本以上自分の歯が残っている高齢者は、口から何でも食べられるため健康寿命が長いことが分かっている。それは 80 歳直前から努力した訳ではなく、若い頃からの積み重ねによるものである。

テーマが若い世代を中心とした食育の推進であるならば、18 歳から 30 歳までの間の 12 年間のフォローが必要である。その間を手厚くしていかなければならないと思う。

○ 事務局

歯科健診実施事業については、歯科医師会のご協力をいただきながら、事業を実施しており、先生方のご意見を踏まえ、40 歳以上となっていた歯科健診の対象年齢を、30 歳以上とした。また、若い人に関しては成人式の場で、歯の大切さや歯科健診を PR している。こうした状況や効果などを踏まえ考えていきたいと思う。

● 委員

食育を推進するためには、口腔環境が大事だということを知ったので、歯科保健を推進するための条例を制定するよう議会で発信していきたい。

● 委員

農として食育を推進する立場から、大人を対象とした講座・親子料理教室などを開催している。栃木県産農産物の PR を兼ねた食育として、料理教室はやはり人気が高いので、そこをうまく利用した食育を試行錯誤しながら続けていきたいと考えている。

○ 事務局

今回の計画は市だけの取り組みだけではなく、団体の方々も含め地域社会全体で推進するものである。各種団体での取り組みで記載がないようなものがあれば、意見を頂きたいと思う。

今後、パブリックコメントを実施し、市民からご意見を伺ったうえで、計画を策定する。

5 閉 会